(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3606594号
(P3606594)
(45)発行日　平成17年1月5日(2005.1.5)　(24)登録日　平成16年10月15日(2004.10.15)

(51)Int.Cl.[7]　F I
B42D 11/00　B42D 11/00　E
B42D 15/04　B42D 15/04　H

請求項の数 1　(全 6 頁)

(21)出願番号　特願平5-347406
(22)出願日　平成5年12月24日(1993.12.24)
(65)公開番号　特開平7-186572
(43)公開日　平成7年7月25日(1995.7.25)
審査請求日　平成12年7月28日(2000.7.28)

(73)特許権者　000110217
トッパン・フォームズ株式会社
東京都港区東新橋一丁目７番３号
(74)代理人　100077986
弁理士　千葉　太一
(72)発明者　菊口　信幸
東京都府中市住吉町２－２３－１７

審査官　赤木　啓二

最終頁に続く

(54)【発明の名称】複写帳票

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
所定方向に移送しながら印字して複写記入する少なくとも３枚の帳票を重ね合わせてなる単片状態の複写帳票において、印字時の移送方向に対して平行に位置する両端部を分離可能に綴じ合わせるとともに、一端部では最上位と最下位の帳票同士を直接剥離可能に接着して分離可能に構成したことを特徴とする複写帳票。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
本発明は、複写帳票に関し、特に、所定方向に移送しながら印字して複写記入を行う所定枚数の帳票を重ね合わせてなる単片状態の複写帳票に関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来から、この種の複写帳票は知られているが、通常は印字時の移送方向と平行な一端側でのみ綴じ合わされて構成されている。
【０００３】
【発明が解決しようとする課題】
このため従来にあっては、複写帳票が連続状態の場合には移送方向と垂直な端部が綴じ合わされているので影響はないが、単片状態の場合には、移送方向と垂直な端部とともに、移送方向と平行な方向の一端側も開放されているので、複写帳票がばらつき易く、先端側

の開放端が移送時に移送ローラや印字ヘッドに引っ掛かると複写帳票がよじれてしまい、円滑で正確な印字が阻害されるという不都合がある。本発明は、これらの不都合を解消し、印字時には移送方向と平行な両端が綴じ合わされた状態にあるが、印字後には一端部を容易に剥離可能とした複写帳票を提供することを目的とする。

【０００４】

【課題を解決するための手段】

この目的を達成するために、本発明の複写帳票は、単片状態の複写帳票において、印字時の移送方向に対して平行に位置する両端部を分離可能に綴じ合わせるとともに、これら綴じ合わせ端の一方側は最上位と最下位の帳票同士を直接剥離可能に接着したものであり、この剥離可能な接着構成としては、例えば、間に位置する各帳票を短く形成したり、同一大の場合には間に位置する各帳票に透孔を設けて、最上位と最下位の帳票同士を剥離可能に綴じ合わせて剥離可能に綴じ合わせればよい。

【０００５】

【作用】

複写帳票の印字時の移送方向に対して平行に位置する両端部を綴じ合わせたので、複写帳票がばらつくことがなく、先端側の開放端が移送時に移送ローラや印字ヘッドに引っ掛かり難いとともに、引っ掛かつた場合でも複写帳票はよじれることがない。また、印字後には一端側の最上位と最下位の帳票を剥離して、通常の複写帳票と同様にして使用できる。

【０００６】

【実施例】

以下、本発明をデパート等における贈答商品の配送のように、あらかじめ送り先や商品が確定しており、配送情報の記入を印字して行う配送伝票に適用した場合の好適な実施例を、添付図面に基づいて詳細に説明する。ここにおいて、図１は複写帳票の平面図、図２はそのＡ－Ａ線断面図、図３は上位から２枚目の帳票である顧客控票の平面図、図４は他の実施例の断面図である。

【０００７】

図１及び図２に示すように、配送伝票１は上位から発店控票２、顧客控票３、売上票４、配達票５及び貼付票６の５枚の帳票からなる。前記発店控票２の表面には、図１に示すように、受付年月日記入欄７、届け先を示す荷受人記入欄８、依頼主を示す荷送人記入欄９、個数記入欄１０、品名記入欄１１、運賃記入欄１２及び着店コード記入欄１３が設けられるとともに、伝票番号１４とこの伝票番号と同一内容をバーコードで表示したバーコード表示１５及び商品を運送する取扱会社名１６があらかじめ印字されている。そして、この発店控票２の下位に位置する顧客控票３、売上票４、配達票５及び貼付票６の表面にも、それぞれ上下に対応する位置に、受付年月日記入欄１７、荷受人記入欄１８、荷受人記入欄１９、個数記入欄２０、品名記入欄２１、運賃記入欄２２及び着店コード記入欄２３が設けられ、伝票番号２４、バーコード表示２５及び取扱会社名２６があらかじめ印字されている（顧客控票３についてのみ図示、図３参照）。

【０００８】

図示してはいないが、発店控票２、顧客控票３、売上票４、配達票５及び貼付票６の各対向面には、カーボン式あるいはノーカーボン式等の公知の適宜な複写構造が設けられている。これによって、前記発店控票２の各記入欄７，８，９，１０，１１，１２，１３に印字記入された情報が、下位の顧客控票３、売上票４、配達票５及び貼付票６の対応する各記入欄１７，１８，１９，２０，２１，２２，２３に複写記入されるものである。前記発店控票２の各記入欄７，８，９，１０，１１，１２，１３に対する印字記入は、配送伝票１を天地端の天方向すなわち図１上、上方向へ移送しながら適宜なプリンタを用いて行われるものである。また、前記貼付票６の裏面側は、粘着剤２７が塗布されるとともに、剥離紙２８によって被覆されている。

【０００９】

図１～図３に示すように、各票２，３，４，５，６の左端側は幅狭の帯状に塗布した接着力の弱い接着剤２９によって剥離可能に綴じ合わせ、また、最上位の発店控票２と最下位

の貼付票６の右端側は、これらの間に位置する顧客控票３、売上票４、配達票５に上下に対応位置して設けた透孔３０を介して、点状に塗布した接着力の弱い接着剤３１によって剥離可能に綴じ合わせている。

【００１０】

本実施例は以上のように構成したので、配送伝票１を移送しながら行う発店控票２の各記入欄７，８，９，１０，１１，１２，１３に対する印字に際し、前記配送伝票１は移送方向と平行な両側端で綴じ合わされているから各票２，３，４，５，６がばらつくことがなく、移送方向先端が移送ローラや印字ヘッドに引っ掛かり難いのでよじれてしまうことがない。したがって、発店控票２の各記入欄７，８，９，１０，１１，１２，１３に対する印字動作を円滑かつ、確実に行うことができ、印字された内容は下位の各票３，４，５，６の対応する各記入欄１７，１８，１９，２０，２１，２２，２３に確実に複写記入される。そして、印字後に右端側の接着剤３１による綴じ合わせ部分を剥離すると、通常の配送伝票と同様にして使用することができるものである。この剥離動作は最上位と最下位の２枚の帳票２、６を剥離すればよいので容易になし得る。

【００１１】

続いて、本発明の他の実施例を図４に基づいて説明する。本実施例における配送伝票４１は、上位から発店控票４２、顧客控票４３、売上票４４、配達票４５及び貼付票４６の５枚の帳票からなり、前記貼付票４６の裏面側は、粘着剤４７が塗布されるとともに、剥離紙４８によって被覆されている。そして、最上位の発店控票４２と最下位の貼付票４６とは同一大に形成され、これら各票４２，４６の間に位置する各票４３，４４，４５は、左右方向の長さが前記各票４２，４６よりも短く形成されている。

【００１２】

図示してはいないが、発店控票４２、顧客控票４３、売上票４４、配達票４５及び貼付票４６の表面には、上述した第１実施例と同一の記入欄及び表示が設けられている。そして、同じく図示してはいないが、前記各票４２，４３，４４，４５，４６の各対向面には、カーボン式あるいはノーカーボン式等の公知の適宜な複写構造が設けられている。これによって、前記発店控票４２の各記入欄に印字記入された情報が、下位の顧客控票４３、売上票４４、配達票４５及び貼付票４６の対応する各記入欄に複写記入されるものである。第１実施例と同様に、この印字記入は、配送伝票４１を天地端の天方向へ移送しながら適宜なプリンタを用いて行われるものである。

【００１３】

各票４２，４３，４４，４５，４６の左端側は幅狭の帯状に塗布した接着力の弱い接着剤４９によって剥離可能に綴じ合わされる一方、最上位の発店控票４２と最下位の貼付票４６の右端側は、これらの間に位置する各票４３，４４，４５の外側において、同じく幅狭の帯状に塗布した接着力の弱い接着剤５０によって剥離可能に綴じ合わされている。

【００１４】

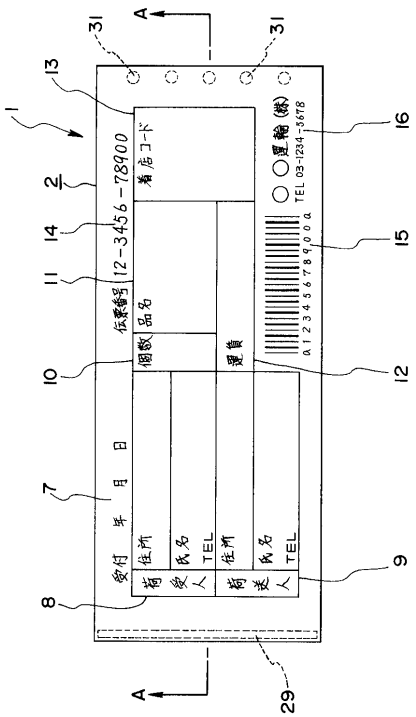
本実施例においても第１実施例と同様に、配送伝票４１の各票４２，４３，４４，４５，４６がばらつくことがないので、印字に際して前記配送伝票４１の移送方向先端が移送ローラや印字ヘッドに引っ掛かり難いのでよじれてしまうことがなく、印字動作及びこれにともなう複写動作を円滑かつ、確実に行うことができる。そして、印字後に右端側の接着剤５０による綴じ合わせ部分を剥離すると、通常の配送伝票と同様にして使用することができるものである。この剥離動作は最上位と最下位の２枚の帳票４２、４６を剥離すればよいので容易になし得る。

【００１５】

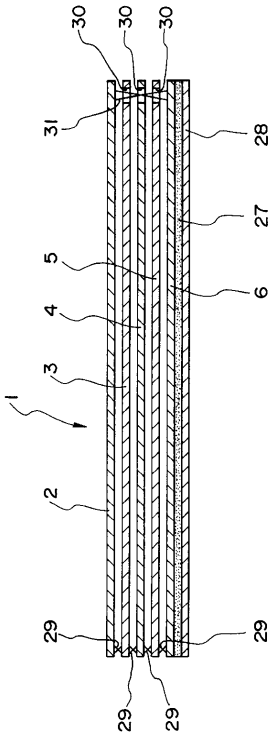
なお、本発明は上述した実施例に限定されるものではなく、例えば、配送伝票１，４１以外の他の複写帳票に適用することも可能であり、帳票の種類に応じて記入欄の大きさ、数、記入内容等も変更される。また、用途によっては、貼付票６，４６のような、裏面側に接着構造を有する帳票は不要である。さらに、複写帳票１，４１の左端側の接着は、剥離困難に接着した構成でもよく、この場合には接着部分の内側に切り用ミシン目を設けておくものである。

【００１６】
【発明の効果】
以上説明したところで明らかなように、本発明によれば、複写帳票の印字時の移送方向に対して平行に位置する両端部を分離可能に綴じ合わせるとともに、一端部では最上位と最下位の帳票同士を直接剥離可能に接着したので、複写帳票がばらつくことがなく、先端側の開放端が移送時に移送ローラや印字ヘッドに引っ掛かり難いとともに、引っ掛かつた場合でも複写帳票はよじれることがなく、印字及び複写を円滑かつ確実に行えるほか、印字後の一端部の剥離動作は最上位と最下位の２枚の帳票を剥離すればよいので容易であるという効果を奏する。
【図面の簡単な説明】
【図１】複写帳票の平面図。
【図２】図１のＡ－Ａ線断面図。
【図３】上位から２枚目の顧客控票の平面図。
【図４】他の実施例の断面図。
【符号の説明】
１，４１　　複写帳票
２，４２　　発店控票
３，４３　　顧客控票
４，４４　　売上票
５，４５　　配達票
６，４６　　貼付票
７，１７　　受付年月日記入欄
８，１８　　荷受人記入欄
９，１９　　荷送人記入欄
１０，２０　　個数記入欄
１１，２１　　品名記入欄
１２，２２　　運賃記入欄
１３，２３　　着店コード記入欄
１４，２４　　伝票番号
１５，２５　　バーコード表示
１６，２６　　取扱会社名
２９，３１，４９，５０　　接着剤
３０　　透孔

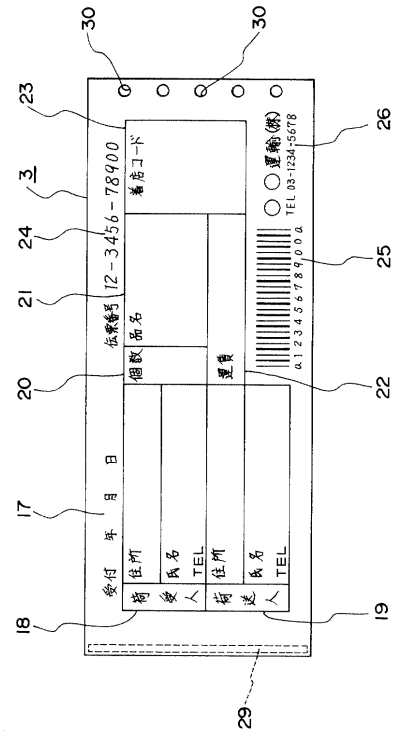
【図１】


A
31
31
13
1
2
14
11
10
7
8
16
15
12
9
29
A
着店コード
12-3456-78900
伝票番号
品名
個数
運賃
受付 年 月 日
荷 住所
受 人 氏名
TEL
荷 住所
送 人 氏名
TEL
運輸(株)
TEL 03-1234-5678

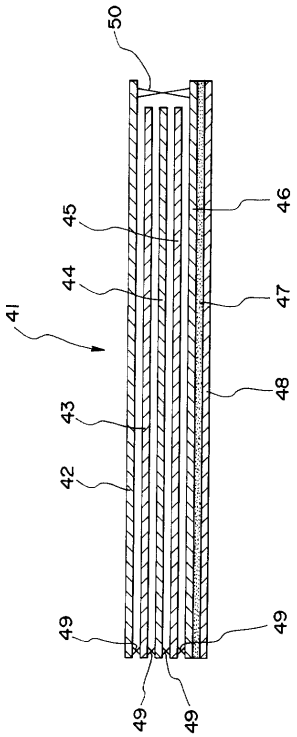
【図２】


30
30
30
31
28
27
5
6
4
3
1
2
29
29
29
29

【図３】


30
30
23
3
24
21
20
17
18
26
25
22
19
29
着店コード
12-3456-78900
伝票番号
品名
個数
運賃
受付 年 月 日
荷 住所
受 人 氏名
TEL
荷 住所
送 人 氏名
TEL
運輸(株)
TEL 03-1234-5678

【図４】


50
45
44
41
43
42
49
49
49
49
46
47
48

フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭６０－１６８９６９（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６２－０７０９７２（ＪＰ，Ｕ）
特開平０２－１４１２９１（ＪＰ，Ａ）
実開昭５７－１７７７７４（ＪＰ，Ｕ）
実開平０１－１０１８７１（ＪＰ，Ｕ）
実開平０２－１０１７７２（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
B42D 11/00 - 15/00